

牛久大仏



(表紙写真提供：牛久大仏)

常陸国^{ひたちのくに}（現茨城県）は、鎌倉時代に「念仏こそ衆生救済の道」と信じて浄土真宗を開いた親鸞聖人^{しんらんしょうにん}（1173～1262年）が過ごした地として知られています。

親鸞聖人は、約20年にわたり関東の布教拠点として現在の笠間市に住みながら、弟子と共に布教に励みつつ、浄土真宗の寺を建立していきました。県内に同宗の寺や事跡が多いのはこのためです。

茨城県の観光名所として名高い牛久大仏は、浄土真宗東本願寺派本山東本願寺の牛久事業として、昭和58年に事業構想が立ち上がり、3年後から工事が着工、平成4年に完成し、翌年7月から一般公開が開始されました。

また、牛久大仏は、青銅（ブロンズ）製立像で世界一の高さであるとして、平成7年にギネスブックへ登録されました。大仏の高さは120mで、自由の女神の約3倍を誇ります。総重量は4,000 t、左手の掌は18mで、像高14.98mの奈良の大仏が乗ってしまうほどの大きさです。

牛久大仏を訪れる年間の観光客数は、約48万人です。平成27年6月に発表された世界最大の旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」の「インバウンド調査」では、牛久大仏が茨城県内の人気観光施設・観光地の頂点に輝きました。

毎年、大晦日から正月三が日の間「修正会^{しゅうしんかい}」が開催され、多くの参拝客で賑わいます。大晦日の23時半より歳末勤行が始まり、カウントダウンとともに花火が一斉に打ち上げられ、新しい年を迎えます。

2017年を締めくくる大晦日、ご家族・ご友人とともに牛久大仏へお参りに行ってみてはいかがでしょうか。



◆場所：茨城県牛久市久野町2083

アクセス：

【電車】圏央道阿見東ICから約3分

【車】JR常磐線「牛久駅」からバスで約20～30分

筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ